

「授業実践シート」を活用した生活単元学習の授業改善
—— 指導と評価の一体化を目指して ——

沖野 大樹・平川 泰寛

『特別支援教育実践センター研究紀要』 第19号 別刷

広島大学大学院人間社会科学研究科附属特別支援教育実践センター

The Bulletin of the Center for Special Needs Education Research and Practice No.19
Graduate School of Humanities and Social Sciences, Hiroshima University
March 2021

<実践研究>

「授業実践シート」を活用した生活単元学習の授業改善

—— 指導と評価の一体化を目指して ——

沖野 大樹*・平川 泰寛*

本稿では、広島県立廿日市特別支援学校の令和2年度の研究テーマ「学習評価」に焦点を当てた教育研究に基づき、中学部の生活単元学習における実践をまとめた。本授業実践では、「授業実践シート」を活用し、単元を通して、授業改善のPDCAサイクルと教育課程の改善のPDCAサイクルをつなぐ枠組に基づき、指導と評価の一体化を目指して授業実践を行った。指導に当たっては、生徒自身が自ら課題を見つけ、目標を設定し、目標を達成するために考えて練習に取り組めるよう、「がんばりシート」を活用した授業実践を行った。また、タブレット型端末で練習の様子を撮影し、「がんばりシート」の目標や振り返りの記述の際に提示することにより、生徒が具体的に自分の課題や目標を見つけ、その目標に向かって練習に取り組むなどの変容が見られた。今後も、「個別の指導計画」の目標や「単元計画」の評価規準には、児童生徒に身に付けさせたい力を具体的に記載した上で、指導と評価の一体化を目指す必要がある。

キーワード：学習評価 育成したい資質・能力「はつかいち」 授業実践シート

I. はじめに

平成26年12月、広島県教育委員会は、変化の激しい21世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築を目指して「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定し、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した主体的な学びを促す教育活動を推進することが示された。

このことを受けて、広島県立廿日市特別支援学校(以下、「本校」とする。)では、平成28年度に本校版「学びの変革」アクション・プラン(以下、「アクション・プラン」とする。)を策定し、後期授業から実施しており、毎年度、改善を重ねてきている。

本校のアクション・プランは、特別支援学校学習指導要領(以下、「学習指導要領」とする。)の育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき、児童生徒や保護者等と共通理解を図りながら指導・支援を行うため、校名にちなみ、育成したい資質・能力を「はつかいち(「は」働く力、「つ」つなぐ、「か」活用、「い」意欲、「ち」知識)」と定め、このことを明確にした「単元(題材)計画」によるカリキュラム・マネジメント並びに「指導略案」や授業づくり資料等を活用した授業改善に取り組んでいる。令和2年度は、令和元年度までの

研究を基に、「学習評価」に焦点を当てて、指導と評価の一体化を目指して研究実践に取り組んでいる。そして、本校では全学級を通して、「授業実践シート」を用いた「1学級1授業」に取り組んでいる。

本稿では、この「授業実践シート」を用いた中学部の生活単元学習の授業実践について紹介する。

II. 令和元年度までの研究の取り組みについて

1. 平成28年度からの研究の取り組みについて

学習指導要領においては、子供たちに求められる資質・能力は何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること、何ができるようになるか(育成を目指す資質・能力)を明確化すること、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと、各学校においてカリキュラム・マネジメントを確立すること等が示されている。

本校は、平成28年度の後期から、研究テーマを「児童生徒の意欲、主体性を育む授業づくり～廿年版『学びの変革』アクション・プランに基づく生活単元学習の授業改善～」として、廿日市特別支援学校版「学びの変革」アクション・プランの実施フロー図に基づき、授業改善等に取り組んできている。

アクション・プランは、育成したい資質・能力を校名にちなんで、はつかいちと定め、このことを明確にした「単元(題材)計画」、「指導略案」及び「授業づ

* 広島県立廿日市特別支援学校

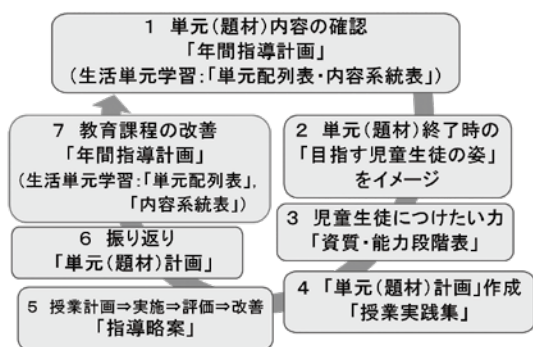


Fig.1 授業改善のPDCAと教育課程の改善のPDCAをつなぐ枠組

くり資料」を授業改善のPDCAサイクルと教育課程の改善のPDCAサイクルをつなぐ枠組（授業改善等7つのステップ）（Fig. 1）に位置付け、学校教育目標で示している「自分らしく豊かにたくましく生きる」ことを目的としている。

3年半の研究において、平成28年度から毎年度実施してきた教職員対象アンケート「廿日市特別支援学校版『学びの革新』アクション・プランに関するアンケート」を基に着実に改善を重ねてきた。また、研究テーマの最終年度である令和元年度においては、「授業改善のPDCAサイクルと教育課程の改善のPDCAサイクルを両輪とする枠組」及び研究体制を確立した「授業研究の枠組」の有用性を検証した。

授業は、「目標」、「手立て」、「評価」から構成される。3年半行った研究において、児童生徒に育成したい資質・能力を明確にし、研究テーマ、仮説に基づき、「目標」設定、「手立て」及び「評価」の方法と妥当性について検討し、組織的に研究に取り組んできた。教職員対象アンケートの結果においても、カリキュラム・マネジメントや授業改善の取組に対する改善状況の全ての項目の平均が88.2%であり、一定の成果を上げた。

一方、学習指導要領においては、「各教科・科目等又は各教科等の指導に当たっては、個別の指導計画に基づいて行われた学習状況や結果を適切に評価し、指導目標や指導内容、指導方法の改善に努め、より効果的な指導ができるようにすること」と、個々の児童生徒の学習状況の評価（以下、「学習評価」とする。）を適切に行うことの重要性が示されており、本校が学校全体で改善・充実を図るべき内容である。

そのため、令和2年度の研究テーマを「育成したい資質・能力を明確にした授業づくり～学習評価に焦点を当てた生活単元学習の授業改善（1年次）～」とし

て、指導と評価の一体化を目指し、さらなる授業改善につなげることとした。

（研究方法）

- ① 学校研究仮説を基に、学級単位で授業研究を行う。
- ② 研究仮説を達成するため、学習評価の在り方を各学級で検討し、授業改善シートにおいて明確にする。
※ 授業改善シートを使用し、個々の学習評価の適切さ及び仮説の妥当性を、授業改善シートによる自己評価、他者評価から捉え、具体的な指標で評価する。

（資質・能力「はつかいち」の観点のうち、その授業でねらう観点に着目して記入することとする。）

- ③ 評価規準を示した単元（題材）計画及び指導略案による1学級1授業を実施し、「授業実践集」を全学級において作成、報告会を実施し、学習評価の方法について共有するとともに、検証を行う。

※ 令和2年12月12日（土）公開授業研究会を開催し、公開する4学級においては、事前指導に向けた取組及び単元終了時の児童生徒の変容等をまとめ（授業実践集）、事前指導報告会において報告する。

- ④ 公開授業研究会の研究授業4グループのいずれかに属し、③を基に学部全体で授業づくりを行う。
- ⑤ 教職員対象アンケートに基づいて成果と課題を整理し、改善を図る。

（仮説・検証方法）

仮説	検証方法
育成したい資質・能力を明確にし、単元（題材）の評価規準を設定するとともに、個々の児童生徒の学習状況の評価（学習評価）を適切に評価し、育成したい資質・能力を身に付けることができるであろう。	①単元（題材）計画「カリキュラム・マネジメント」欄の記述により目標の達成状況、目標設定の妥当性、指導・支援の適切さ並びに児童生徒の学習状況の評価する。 ②授業改善シートを活用した自己評価、他者評価により指導・支援の妥当性を検証する。

Ⅲ. 令和2年度の研究の取り組みについて

1. これまでの研究と「学習評価」との関連性

先述した通り、令和元年度までの研究成果から、授業改善のPDCAサイクルと教育課程の改善のPDCAサイクルをつなぐ枠組（授業改善等7つのステップ）という全体の枠組みは完成したものの、ステップ一つ一つに関わる「学習評価」について、「どのような評

価値観で評価すればよいのか。」「個別の指導計画にどのように反映させればよいのか。」「学習状況をどのように読み取ればよいのか。」等の様々な意見や疑問が多くあった。そのため、研究部は令和2年3月に、学習評価の概要図 (Fig. 2) を作成し、本校での「学習評価」の捉え方を統一した。

学習評価の概要図は、授業改善のPDCAサイクルと教育課程のPDCAサイクルをつなぐ枠組みにおける、「学習評価」の位置を示している。

学習評価は、学習指導要領解説総則編には、「学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するもの」と示されており、同各教科等編においては「一つの授業や単元、年間を通して、児童生徒がどのように学ぶことができたのかということや、成長したのかを見定めるものが学習評価である。」と示されている。

また、学習評価の目的について、学習指導要領解説には、「『児童生徒にどういった力が身に付いたか』という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする」と示されており、その「学習評価の在り方は重要であり、教育

課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取り組みを進めることが求められる。」と示されている。

本校では、この学習・指導方法と学習評価の改善の一貫性のある取り組みとして、令和元年度まで授業改善のPDCAサイクルと教育課程のPDCAサイクルをつなぐ枠組みを構築し、研究推進を行ってきた。

この概要図では、授業のPDCAサイクルと教育課程のPDCAサイクルをつなぐ枠組み（「授業改善等7つのステップ」）の中の、「5 授業計画 ⇒ 実施 ⇒ 評価 ⇒ 改善、6 振り返り」に令和2年度の研究テーマである学習評価の重要性を明確に示した。

まず、授業における学習状況の評価については、学習過程の適切な場面で評価する等の方法を工夫することや、学習評価の妥当性や信頼性を高めていくことが重要であると学習指導要領解説に示されている。

また、「授業計画ー実践」、「学習状況の評価」、「授業改善」、「授業の分析」のように、授業計画を立てて授業実践を行って学習状況の評価を行うものであるが、学習状況の評価を基に授業を分析し、授業改善を繰り返していく。この繰り返しのサイクルが「指導と評価の一体化」である。日々の授業や単元におけるサイクルの積み重ねが、資質・能力「はつかいち」の育成につながるということを概要図で表している。

研究部は、学習指導要領に明記されている学習状況の評価の在り方を基に、児童生徒の学習状況を適切に評価すること、指導と評価の一体化を目指して「授業計画ー実践」、「学習状況の評価」、「授業改善」、「授業の分析」の授業改善PDCAサイクルを理解した上で学習状況の評価を推進することの2点を目指し、令和2年度の研究をスタートさせた。

2. 「授業実践シート」について

指導と評価の一体化を目指した、令和2年度の研究推進では、「授業実践シート」を用いた「1学級1授業」を行っている。「1学級1授業」は各学級において、研究テーマ及び学校研究仮説を意識した生活単元学習の授業研究を行う取組である。

「授業実践シート」に沿って授業づくり、単元づくりを行うことにより、児童生徒に育成したい資質・能力を明確にすることや、それを基にした評価規準を設定することができるよう工夫している。

また、個別の指導計画における該当単元の個々の目標を「授業実践シート」に転記し、単元や本時の目標と関連付けて学習状況の評価を行うことにより、学習評価を前提とした目標設定の必要性に気付いたり、授

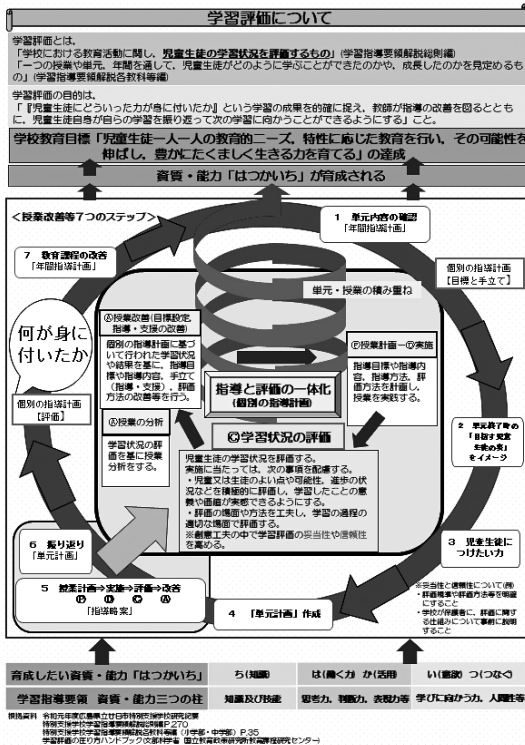


Fig.2 学習評価の概要図

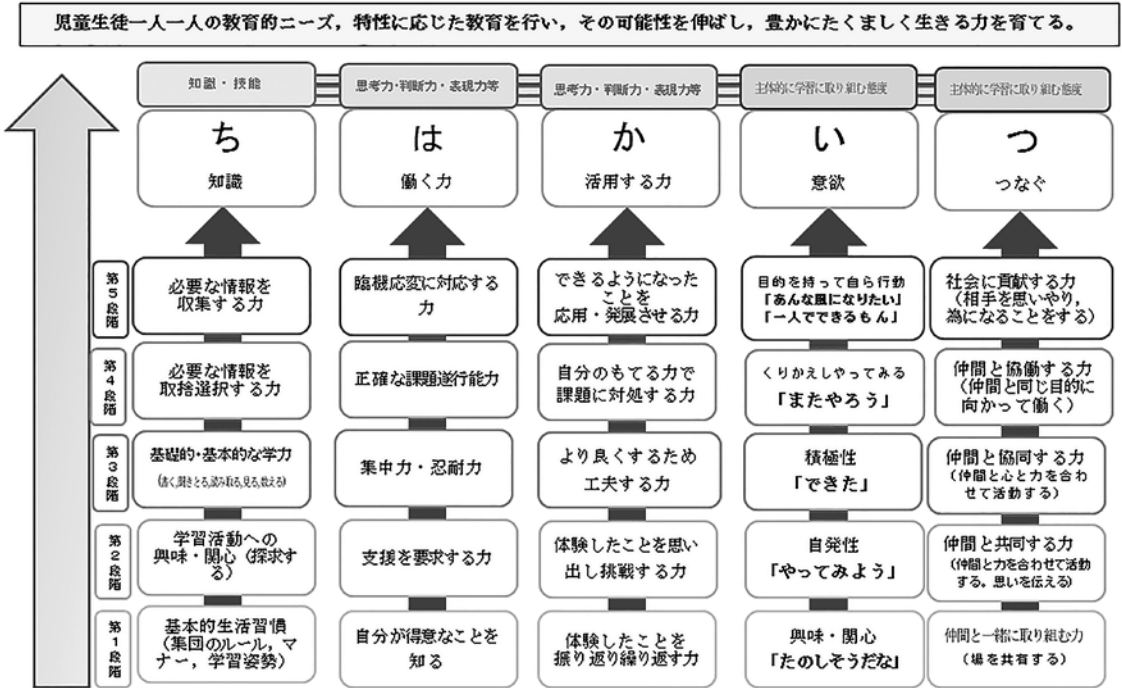


Fig.4 「育成したい資質・能力はつかいち段表」

業展開・手立て等の工夫を考慮することができたりするようにしている。

「授業実践シート」は、単元計画、指導略案、単元の振り返り、授業改善シートの計4枚で構成している。単元計画には、「育成したい資質・能力はつかいち段階表」(Fig. 4)を活用して記入する。特に、評価規準については、該当単元において育成したい資質・能力「はつかいち」の段階の欄にチェックを入れた上で記入することとしている。

学習指導要領で示されている育成を目指す資質・能力の三つの柱「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」又は「学びに向かう力、人間性等」の枠に、本校の育成したい資質・能力「はつかいち」を結び付け、それぞれ具体的な表現で評価規準を記入する。

次に、指導略案については、単元計画で設定した評価規準を指導略案にも転記し、それに基づいて本時の目標や手立て、評価の観点等を記入する。

その際ポイントとなるのが、本時の個々の目標が、育成したい資質・能力「はつかいち」において、どの観点をねらうのかについて明確にして、学習活動の右端の欄に明記することである。

授業実施後、単元の振り返りと授業改善シートを記

入する。「単元の振り返り」では、該当単元を通して、工夫した手立てや支援の方法等について記載する。また、個別の指導計画とリンクできるように、「本単元における個々の目標と学習状況の評価」という欄を設けている。単元計画に、個別の指導計画に記載した目標を明記することにより、単元を通して、目標の設定は適切であったか、目標を達成するための手立ては適切であったかを常に評価することができ、学習評価の妥当性、信頼性を高めることができる。

「授業改善シート」については、本来、授業観察者が、評価や改善点をチェックするために活用している様式であるが、「1学級1授業」においては、授業者が学習評価を行ったり、担任同士で話し合ったりすることができるよう、様式を改良している。

この「授業改善シート」では、学習評価(本時の目標の達成状況、何が身に付いたか)、学習評価を行う際に工夫した点や有効だった方法、学習評価を行う上での課題や改善に向けてのアイデアについて記入する。

各学級において記入内容を基に、授業改善を進めるとともに、研究部が授業実践シートを「授業実践集」として集約し、実践や学習評価の方法や結果について

蓄積し、学習評価の妥当性や信頼性を高めるとともに、次年度の研究推進に向けた課題を見出していくことをねらいとしている。

このように、単元の振り返りと授業改善シートを用いた本単元の学習評価を行うことにより、授業改善だけでなく、教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）も行うことができる。

IV. 授業実践について

1. 生徒の実態について

以上の授業改善等の取組に基づき、「授業実践シート」を用いた生活単元学習の授業における取組について、その概要と成果と課題について記載する。

筆者が担任をしている広島県立廿日市特別支援学校 中学部第1学年の単一障害学級である本学級は、知的障害のある生徒6名（男子生徒4名、女子生徒2名）で構成しており、障害の特性や発達段階は様々である。

本単元が始まる前の、自ら課題や目標について考え活動することや、集団の中で友だちと協力したり、意見を共有したりして一緒に活動することについての実態は、Table 1のとおりである。

Table 1 生徒の実態

生徒A	自分のやりたいことややりたくないことについて、他者に表現できるが、自ら課題を設定することは難しい。
生徒B	友だちの意見やアドバイスを素直に聞き入れることが難しい。
生徒C	自分の課題を見付け、目標を設定することができるが、どのように課題を解決していけばよいかの方法が思いつかない。
生徒D	友だちの意見やアドバイスを素直に聞き入れることが難しい。
生徒E	自分の思いや意見を他者に表現できるが、失敗してしまうと落ち込んで、活動が投げやりになることがある。
生徒F	友だちの意見やアドバイスを聞き入れて、改善しようとする。

2. 単元計画について

本単元は、「はつようまつりにむけて」という単元名で、毎年11月に本校で行われる「はつようまつり」という行事（文化祭）の中で行うステージ発表に向けて、練習や準備に取り組む単元である。本単元の単元目標は、以下のとおりである。

（思考力・判断力・表現力等）ステージ発表が上手

にできるようにするための解決策を考え、表現することができる。

（学びに向かう力、人間性等）集団の中での自分の役割を理解し、やり遂げたときの達成感や喜びを味わうことができる。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、運動会や校外学習等の行事が中止になる等、学級全体で一つのことに向かって協力し合って活動する機会が減った。そのため、この「はつようまつり」のステージ発表が初めての大きな行事となった。また、今年度のステージ発表では、本学年はフラフープを用いたダンスやボディーパーカッションを発表することになった。そこで、単元の評価規準をFig. 6のように設定した。本学級の生徒の実態と単元目標から、生徒が自ら課題や目標を考えて設定し、それを評価して次の授業につなげていくことをねらい、「がんばりシート（Fig. 5）」を活用した授業を、単元を通して取り組むことにした。

はつようまつり れんしゅう がんばりシート

月 日 曜日	氏 名
<small>もくひょう</small> 目標 (がんばること)	
<small>ひょうか</small> 評価	
<small>ふりかえり</small> 振り返り	きょうの れんしゅうで いちばん がんばったことを かこう
<small>つぎのもくひょう</small> つぎの目標	つぎの じゅぎょうの もくひょうを かこう
<small>せんせいから</small> 先生から	

Fig. 5 がんばりシート

「授業実践シート」を活用した生活単元学習の授業改善

学部・学年・学級	(中学)部 第(1)学年(2)組					
教科・領域名	生活単元学習					
単元(題材)名	はつようまつりにむけて(全19時間)					
単元(題材)目標	(思) ・ステージ発表が上手にできるようにするための解決策を考え、表現することができる。 (学) ・集団の中での自分の役割を理解し、やり遂げたときの達成感や喜びを味わうことができる。					
単元(題材)の 評価規準	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等			
	ステージ発表の内容や自分の役割を知り、最後まで取り組むことができる。	どうすれば、ステージ発表が成功できるか、自分の考えや達成度をがんばりシートにまとめ、それを基に自ら目標を設定し、練習に取り組む表現することができる。	ステージ発表を振り返り、自分のできたことや頑張ったことをワークシートにまとめることができる。			
はつかいち 「学びの変革」	ち【知識】	は【働く力】	か【活用】	い【意欲】	つ【つなぐ】	
	知識・情報 技能・行動	思考力・判断力・表現力	知識・技能の活用	興味・関心 主体性	共同・協同・ 協働	
育 成 し た い 資 質 ・ 能 力 段 階 表	第5段階	<input type="checkbox"/> 必要な情報を収集する力	<input type="checkbox"/> 臨機応変に対応する力	<input type="checkbox"/> できるようになったことを応用・発展させる力	<input type="checkbox"/> 自信をもって自ら行動 〔「あんな風になりたい」「一人でできる」〕	<input type="checkbox"/> 社会に貢献する力 (相手を思いやり、為になることをする)
	第4段階	<input type="checkbox"/> 必要な情報を取捨選択する力	<input type="checkbox"/> 正確な課題遂行能力	<input type="checkbox"/> 自分のもてる力で課題に対処する力	<input type="checkbox"/> くりかえしやってみる 〔「またやろう」〕	<input type="checkbox"/> 仲間と協働する力 (同じ目的に向かって働く)
	第3段階	<input type="checkbox"/> 基礎的・基本的な学力 (書く、聞きたる、読み取る、見る、数える)	■集中力・忍耐力	■より良くするため工夫する力	■積極性 〔「よし!やるぞ」〕	<input type="checkbox"/> 仲間と協同する力 (心と力を合わせて活動する)
	第2段階	■学習活動への興味・関心(探求する)	■支援を要求する力	■体験したことを思い出して挑戦する力	■自発性 〔「やってみようかな」〕	■仲間と共同する力 (力を合わせて活動する)
	第1段階	■基本的な生活習慣(集団のルール、マナー、学習姿勢)	■自分が得意なことを知る	<input type="checkbox"/> 体験したことを振り返り繰り返す力	■興味・関心 〔「楽しそうだな」〕	■仲間と場を共有する力

Fig.6 単元の評価規準

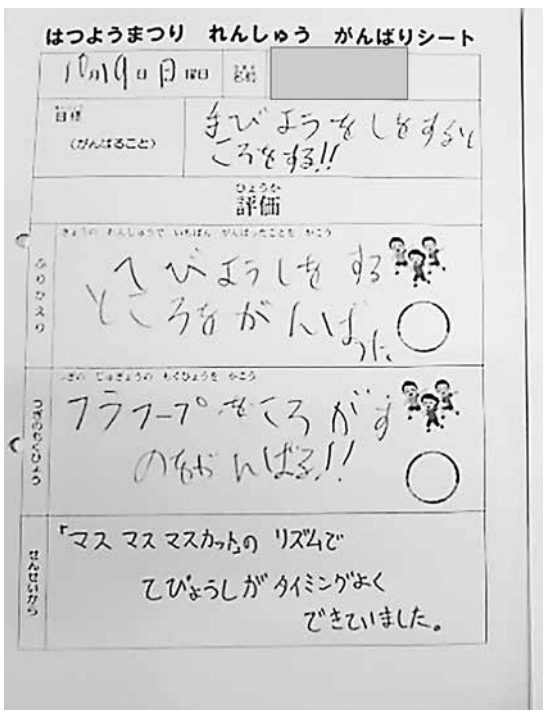


Fig.7 生徒のがんばりシートの記述 (前時)

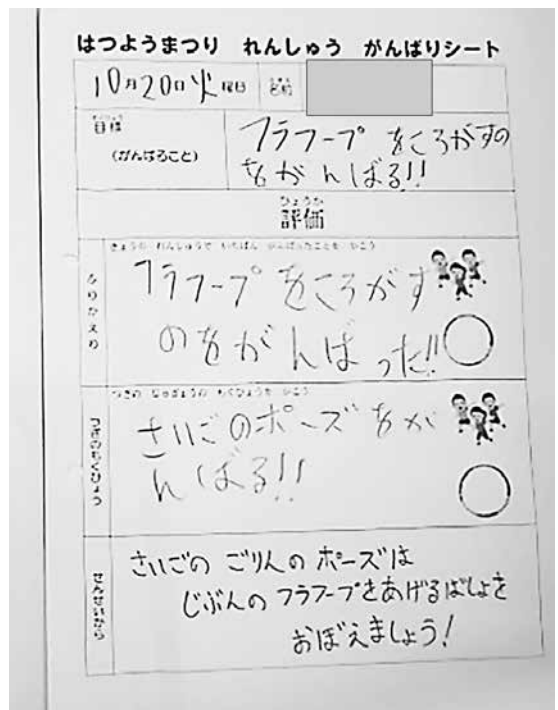


Fig.8 生徒のがんばりシートの記述 (本時)

3. 指導の実際

指導と評価の一体化を目指したPDCAサイクルを意識して、本単元の第2次の授業展開を固定にした。

具体的には、まず、前回の「がんばりシート」と、タブレット型端末で撮影した練習風景を確認し、「がんばりシート」の目標の部分を記入する。目標を記入した後、ステージ発表の練習を行う。その際、新しい振り付けや動き方等を学級全体で考える場を設定する。練習後に、「がんばりシート」の評価の部分を生徒自身が書く。その際、練習の様子をタブレット型端末で撮影しておき、それを生徒が確認することで本時の練習の成果や課題を考えながら書く。授業後に、教師からのアドバイスを記入しておき、次の授業で確認する。基本的に、以上の流れで授業を行った。

4. 生徒の変容と課題

始めは、生徒がどのように「がんばりシート」を書けばよいのか、課題や目標をどう設定すればよいのか分からず、書けない状況が見られた。「がんばりシート」の書き方の見本例も提示したが、生徒はその書かれてある文章の内容を、そのまま自身の「がんばりシート」に書き込む姿がよく見られた (Fig. 7)。

しかし、教師がタブレット型端末で練習の様子を視覚的に提示したこと、生徒自身が練習に慣れ、振り付けを覚えてきたことが重なり、生徒自身が自らの課題を基に、目標を書くことができた (Fig. 8)。生徒たちは、ステージ発表に向けて、意欲的に取り組み、振り付けや隊形移動の時は、「みんなで手拍子しよう。」や「フラフープを上にあげて移動しようよ。」等の意見が出た。また、「がんばりシート」に書いた課題についてどのようにすれば上手に踊れるかを考えて練習する姿も見られた。また、練習の中での、頑張るところや課題として注目するところが「がんばりシート」を記入することで明確になり、何度も繰り返し主体的に練習する姿や、練習後の振り返りで達成感を味わう生徒の姿も見られた。「はつようまつり」終了後、本番の発表動画を全員で視聴し、振り返りのワークシートでは、自分が頑張ったことを具体的に書くことができた。さらに、書き方についても、ただ「ダンスが楽しかった。」という評価ではなく、「ダンスのこの部分を頑張った。」と具体的に書くことができた。

一方、課題としては、「がんばりシート」の「せんせいから」の記述である。はじめは、授業後に教師が生徒の「つぎのくひょう」の記述に対するアドバイスを書いていた。この内容に生徒が影響されてしまい、

目標に対しての解決策を考えるとところまで発展しなかった。このことから、教師からの記述を途中でやめて、生徒とのやり取りの中でアドバイスを行うこととした。

5. 「授業実践シート」を活用した学習評価

本単元終了後、「授業実践シート」の「単元の振り返り」(Fig. 9)と「授業改善シート」(Fig. 10)を用いて学習評価を行った。

「単元の振り返り」は、本単元において工夫した手立てや支援の方法、本単元における個々の目標と学習状況の評価、カリキュラム・マネジメントの3点で構成されており、授業改善の側面と教育課程の改善の側面の2つの学習評価を行うことができるようになっている。

本単元における個々の目標と学習状況の評価の欄は、個別の指導計画とリンクしており、生徒一人一人の個別の指導計画の目標を、単元を通して常に意識しながら、単元の流れや授業計画を修正していくことができた。

具体的には、先述した「がんばりシート」での生徒へのアドバイスのタイミングを変えることや、練習の時間を増やしたことが挙げられる。

先述した通り、学習指導要領解説には、「評価をする上で学習の課程の適切な場面で評価する等の方法を工夫することや、学習評価の妥当性や信頼性を高めていくことが重要」であると示されている。

「授業実践シート」の中に、個別の指導計画の目標を明記する欄があることは、個々の目標に基づいた一貫した指導計画を立てることができ、学習評価の妥当性や信頼性を高めていくという点において、非常に有用であると考えられる。

また、カリキュラム・マネジメントの欄では、年間指導計画に基づく、本単元の指導内容や授業形態、授業時数について評価する。これを基に、来年度の年間指導計画の改善につなげていくことができる。

また、中学部三年間の系統性をもたせるだけではなく、小学部と高等部を併せた12年間の系統性を考える点についても、単元の終了ごとにカリキュラム・マネジメントの欄を記入することは、非常に有用であると考えられる。「授業改善シート」についての評価では、指導略案に基づき、育成したい資質・能力「はつかいち」に基づいた19の項目を5段階で評価する。そして、「★学習評価(本時の目標の達成状況、何が身に付いたか)」、「学習評価を行う際に工夫した点や有効だった

本単元において工夫した手立てや支援の方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・「がんばりシート」を用いて、毎時の授業の目標と評価を生徒に振り返らせることで、生徒の毎時の目標がより具体的になり、何を頑張ればよいのか見通しを持って取り組む姿が見られた。 ・タブレット型端末を用いて、練習風景を撮影し、授業の始めや振り返りの際に提示することで、生徒は具体的に課題やそれに基づく目標設定を行うことができた。 ・生徒と一緒に振付を考えながら練習を進めることで、生徒が意欲的に練習に取り組む姿が見られた。 				
本単元における個々の目標と学習状況の評価				
児童生徒	目標	学習状況の評価		
A	自分の役割を最後まで取り組み、頑張ったことをワークシートに書いて発表することができる。	・振り返りの発表では、「マスカットのダンスで片足でジャンプするのを頑張りました。」と発表する姿が見られた。		
B	はつようまつりに向けての目標を考え、目標に沿って自分の役割を最後まで取り組み、目標に沿った評価をワークシートに書いて発表することができる。	・振り返りでは、「フラフープを転がすのははじめは難しかったけど、やさしく投げるようにしたらできました。」と発表する姿が見られた。		
C	「どのようなはつようまつりにしたいか」自分の目標を設定し、目標を意識して自分の役割を指定された時間いっぱい取り組むことができる。	・練習では、「五輪のポーズをかってよく決める。」という目標を意識して、フラフープの挙げる位置を自分で考えながら調整する姿が見られた。		
D	はつようまつりのしおりに、ステージ発表の紹介文を記入することができる。	・自分で発表内容に基づいた絵や文章を考えて描き、紹介文としおりに書くことができた。		
E	自分の役割を目標に沿って時間いっぱい取り組み、はつようまつりについて頑張ったことをワークシートに書いて発表することができる。	・振り返りでは、「マスカットのダンスで拍手をするのを頑張りました。」と発表する姿が見られた。		
F	自分の役割に見通しを持ち、時間いっぱい取り組み、はつようまつりについて頑張ったことを写真の中から選び、ワークシートに貼ることができる。	・振り返りでは、フラフープの写真をワークシートに貼る姿が見られた。		
カリキュラム・マネジメント				
何が身についたか	学習評価 (単元(題材)目標の達成状況) ※ 記入に当たっては「授業改善シート」を参照	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
		ステージ発表の内容や自分の役割を知り、最後まで取り組むことができる。	どうすれば、ステージ発表が成功するか、自分の考えを振り返りシートにまとめ、考えをもとに、練習に取り組む表現することができる。	ステージ発表を振り返り、自分のできたことや頑張ったことをワークシートにまとめることができる。
何を学ぶか	資質・能力の育成のために、指導内容は妥当であったか	・他学年の発表が見れるような時間があるとよい。		
	資質・能力の育成のために、授業時数や授業形態は妥当であったか	・妥当であった。		
次年度の単元への改善案や要望		・特になし		

Fig.9 単元の振り返り

方法]、「学習評価を行う上での課題や改善に向けてのアイデア」の3点を自由記述で書く。

本授業では、主に「は」「か」「い」の3つの資質・能力を意識して指導を行ったので、概ね3か4の評価を付けた。しかし、「授業改善シート」の「⑩児童生徒の実態に合った方法で説明したり、指示を出したりしている。」と「⑨学習の過程の適切な場面で評価を行っている。」については2の評価とした。前者については、生徒の考える時間や場面を設定することが少なかったこと、後者については、「がんばりシート」

を用いた評価は行ったものの、練習中の即時評価の回数が少なかったことから「2」という評価をそれぞれ付けた。また、下段の3つの自由記述の欄については、19の項目を踏まえて、本時の学習評価についての振り返りを記入した。

このように、「授業改善シート」を活用することで本時の授業について、育成したい資質・能力「はつかいち」と学習評価に関わる19項目に照らし合わせながら、学習評価を行うことができ、ここでの評価を基に、次の授業への改善を行うことができた。

本時の振り返り（授業改善シート）			
授業日時	令和2年10月20日（火） 3校時	学部・学年	中学部 第1学年2組
教科等	生活単元学習	授業者氏名	T1沖野 , T2市場
単元・題材名	はつようまつりにむけて	記入者	教諭 沖野大樹
授業観察の観点 ※網掛け部分は本時の重点項目			評価
基本	①児童生徒の実態を踏まえ、本時のねらいが適切に設定されている。		5・④・3・2・1
	②教室内の学習環境が整っている。（教室前面に学習の妨げになるような掲示物がない、学習に無関係のものが出していない等）。		5・④・3・2・1
児童生徒の姿	③健康・体調・安全面や衛生面への配慮を十分に行っている。		5・4・④・2・1
	④基本的な学習習慣が定着している。（挨拶、話を聞く態度・姿勢等）。	は	5・4・④・2・1
	⑤集中して学習に取り組む、課題を逆行しようとしたり、難しい場合には自ら支援を求めたりしている。	は	5・4・④・2・1
	⑥仲間の活動する様子を見たり、一緒に取り組んだりしている。	つ	5・4・④・2・1
	⑦既習事項や経験したことを生かしている。（挑戦する、工夫する、課題を解決する等）	か	5・④・3・2・1
	⑧学習に対する意欲的な姿勢を、動作・言葉・態度等で表現している。	い	5・4・④・2・1
教師の指導・支援	⑨本時のねらいを達成することができたかについて、自己評価・他者評価を用いて振り返っている。	ち	5・4・④・2・1
	⑩児童生徒の反応・発信に気づき、肯定的に受け止め、授業の中で生かしている。	は	5・4・④・2・1
	⑪児童生徒が自ら考えて行動するための発問や教材・教具、活動内容の工夫がある。	は	5・4・④・2・1
	⑫授業リズムを徹底している。（授業開始時間、終了時間、挨拶等）。	は	5・4・④・2・1
	⑬児童生徒が関わりをもち、共に活動する場面が設定されている。	つ	5・4・④・2・1
	⑭前時の振り返りを行ったり、既習事項を活かしたりする場面が設定されていたりする。	か	5・④・3・2・1
	⑮児童生徒が興味・関心を持つような教材・教具、提示の仕方、発問の工夫等がある。	い	5・4・④・2・1
	⑯児童生徒の実態に合った方法で説明したり、指示を出したりしている。	ち	5・4・3・④・1
	⑰研究仮説を達成するための教材・教具、授業展開、指導方法等の工夫がある。		
	⑱研究仮説「育成したい資質・能力を明確にし、単元（題材）の評価規準を設定するとともに、個々の児童生徒の学習状況の評価（学習評価）を適切に行うことにより、育成したい資質・能力を身に付けることができるであろう。」		5・4・④・2・1
学習評価	⑲児童生徒のよい点や可能性、進捗の状況などを積極的に評価している。		5・4・④・2・1
	⑳学習の過程の適切な場面で評価を行っている。		5・4・3・④・1

評価：5:大いに当てはまる 4:ほぼ当てはまる 3:標準 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

★学習評価（本時の目標の達成状況、何か身に付いたか）

・生徒自身が目標を自ら設定し、それに向けてどうすれば達成できるかを考えて練習に取り組む姿が見られた。
・練習後の振り返りでは、自分のできたことと課題に対する次の目標を自分の言葉で設定することができた。

★学習評価を行う際に工夫した点や有効だった方法

・タブレット型端末を用いて、練習の様子を撮影し、授業の始めと振り返りの時に提示することで、生徒が自分のできたことや難しかったことを具体的に気づけることができた。

★学習評価を行う上での課題や改善に向けてのアイデア

・教師が生徒の課題や目標に対して、すぐにアドバイスを送るのではなく、生徒が自ら考えて練習に取り組む時間を多く設定するとよい。

Fig.10 本時の振り返り

V. おわりに

本研究では、今年度の本校の研究テーマ「学習評価」に基づき、「授業実践シート」を用いた授業実践を行った。「授業実践シート」を活用することにより、個別の指導計画の個々の目標に基づいた授業づくりを行うことができた。また、単元を通して、生徒の学習状況の評価を基に、授業の内容を何度も修正することがで

き、単元を通して指導と評価の一体化のサイクルを回すことができた。

課題としては、学習評価を適切に行うための、単元の評価規準の設定及び個別の指導計画の記述の仕方である。授業内での学習状況の評価の読み取り方については、「授業実践シート」の活用もあって、「がんばりシート」やタブレット型端末を用いた学習評価の手立てを実践した。しかし、単元の評価規準の設定、個別の指導計画での目標の設定について課題を感じた。

児童生徒に何が身に付いたかということを的確に捉えるため、「個別の指導計画」の「目標」、「単元（題材）計画」の「単元（題材）の評価規準」には、児童生徒に身に付けさせたい力を具体的に記載することが必要である。また、「個別の指導計画」の「目標」、「単元（題材）計画」の「単元（題材）の評価規準」が活動内容のみである場合は、学習評価の内容の妥当性や信頼性を確保することが困難となるため、育成したい資質・能力を児童生徒に身に付けさせること、授業改善や教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）を行うこと、保護者等に対する説明責任を果たすことなどが難しくなる。今回の授業実践では、この個別の指導計画の目標や、「単元（題材）の評価規準」の記載について育成したい資質・能力「はつかいち」に基づいて、生徒に身に付けさせたい力をより明確にする必要があったと考える。本単元において、目標が明確になれば、授業の手立てにおいて、生徒が目標を達成するために自ら考える場面を増やしたり、教師のアドバイスのタイミングを調整したりすることに気付き、改

善することができたと筆者は考える。

最後に、令和2年度は、「授業実践シート」を活用した「1学級1授業」を実践し、全学級の「授業実践シート」を集めた「授業実践集」の作成並びに各学部学年での「1学級1授業」の報告会を予定している。学習評価を適切に行うための目標設定、つまり、単元の評価規準の設定及び個別の指導計画の記述内容の改善を目指して、今後も教育の質を高めていきたい。

文 献

広島県教育委員会（2014）広島版「学びの変革」アクションプラン—コンピテンシーの育成を目指して主体的な学びの充実—. <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/150031.pdf>（2021年1月29日閲覧）

文部科学省（2017）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領。

（2021.2.1受理）

Improving Lesson Unit Learning Using the “Class Practice Sheet”: Aiming to Integrate Instruction and Evaluation

Daiki OKINO

Hiroshima Prefectural Hatsukaichi Special Needs School

Yasuhiro HIRAKAWA

Hiroshima Prefectural Hatsukaichi Special Needs School

In this paper, we have summarized the practices in the life unit learning of the junior high school based on the educational research focusing on the research theme “learning evaluation” of the second year of Reiwa of Hiroshima Prefectural Hatsukaichi Special Needs School. In this teaching practice, to take advantage of the “teaching practice sheet”, through the trading unit, based on the framework that connects the PDCA cycle of improvement of the curriculum and the PDCA cycle of lesson improvement, I was teaching practice with the aim of integration of teaching and evaluation. In teaching, the lesson practice using the “Perseverance sheet” was conducted so that the students themselves could find the tasks, set the goals, think and practice to achieve the goals. In addition, by taking a picture of the practice with a tablet terminal and presenting it when describing the goals and reflections on the “Perseverance sheet”, students can find their own tasks and goals and practice toward those goals. Changes such as working on were seen. In the future, it will be necessary to aim to integrate instruction and evaluation after specifically stating the abilities that children and students want to acquire in the goals of the “individual instruction plan” and the evaluation criteria of the “unit plan”.is there.

Keywords: Learning evaluation, Qualities and abilities that you want to develop “Hatsukaichi”, Class practice sheet